

令和4年度 事業報告

1 概要

令和4年度における世界経済は、新型コロナウイルス感染症に関しては、ワクチン接種が進んだことなどにより、徐々に経済活動が正常化し始め、影響が少なくなってきました。一方、前年度に始まったロシアのウクライナ侵攻により、石油などの資源価格が上昇すること等によるインフレが各国に影響を及ぼしており、これに対応するため、欧米等の中央銀行によって大幅な金利引き上げが行われ、急速な物価上昇を抑え込む対応を取りましたが、それに伴い一部金融機関の破綻などの金融不安要因も発生しており、今後の経済情勢を見通しにくい状況となっております。

国内では、欧米との金利差拡大に伴い円安が進み、原油やエネルギー、輸入品の価格が上昇した影響などから、生鮮食品を除いた年度平均の消費者物価指数は前年度より3.0%上昇し、1981年度以来41年ぶりの水準となりました。

また、岡山財務事務所の発表による県内の経済情勢では、前回からの「持ち直している」との景気判断を据え置いており、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあり、持ち直していくことが期待されますが、世界的な金融引締めが続く中、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクになっている状況です。

3月期決算の企業については、業績回復の傾向が強まっており、前期比で最終増益を見込む企業の比率は約7割と高水準で推移しています。原料高の価格転嫁が進んでおり、新型コロナウイルス前の水準へ利益が回復しつつあり、5割以上の企業が19年3月期を上回る状況です。

一方、令和4年度における、シルバー事業の売上げは、公共部門は、約2億5,348万円で対前年比約102.7%と前年を上回る売上げを確保できました。民間部門については、前年を下回る対前年比約94.4%の約4億4,042万円となりました。全体売上げは、約6億9,390万円で対前年比約97.3%と前年を約1,951万円下回る売上げとなっております。

経常利益については、昨年は、豪雨、大型台風などの大きな災害をもたらしかねない気象現象が少なく、一年を通じて穏やかな気候となったことも幸いし、剪定、草刈りによる売上げの確保と派遣事業の利益増加などにより、通期では、昨年度を約451万円下回りましたが、昨年度に引き続き約5,362万円の黒字となりました。

会員数の増強については、本年度は、対前年比約99.1%の1,451人と昨年度と比べて約0.9%の落ち込みとなりました。新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の支部での入会説明会は実施できませんでしたが、例年10月に実施している岡山駅前でのキャンペーン活動やその他の会員増強運動などを中止や制限せざるを得なかった影響が出ているものと思われます。しかし、会員を退いた後の特別会員としてシルバーに残られる方は、以前は5~6人程度であったものが、ほぼ昨年度並み10人を維持し、仕事だけでなく、生きがいや仲間づくりの場としてシルバーが認識されて来ているものと思われます。

また、懸案の安全就労については、傷害事故は、昨年度より9件増え、合計21件となりました。これは、作業中だけでなく作業への行き帰りにおける転倒事故が増えていることが大きな要因と思われます。賠償事故は、カルマー使用の普及などにより、飛び石事故は以前ほど発生しておりませんが、依然として、カルマーを使うべき場所でカルマーを使用しなかったことによる飛び石事故が見られます。そのため、新人講習会、研修会等による啓発活動や安全パトロールの強化に努めておりますが、草刈りの事故件数は、昨年度を1件上回る状況となっております。

2 安全就業の徹底

安全就業を最重要課題として、「安全はすべてに優先する」ことを念頭に、就業中や途上の事故、損害賠償事故ゼロを目標に掲げ、安全・適正就業委員会を中心として、安全パトロールの強化、植木剪定での監視員の配置、新人研修の徹底、カルマー(草刈機)研修会等を実施しました。新人研修では、就業時に事故の多い剪定作業や草刈り作業での事故例を示し、会員に対し安全意識と自己の健康管理の高揚に努めてまいりましたが、賠償事故は5件で前年度比1件増加し、傷害事故は21件で前年度比9件の増加でした。今後はより一層、安全就業の徹底を図ります。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会員に新型コロナウイルス感染症に関する啓発、情報提供を行いました。さらに、前年度に続き熱中症対策として、植木剪定や草刈り作業では、空調服(送風機付き作業服)の導入を進めました。

3 適正就業の徹底

既存の請負・委任業務の再点検と必要に応じ「労働者派遣事業」への切り替え等の対応を行い、適正な就業形態に向けた是正措置を継続的に行いました。また、複数の会員によるローテーション就業の促進、長期就業の解消などのワークシェアリングを推進し、より多くの会員への就業機会の確保に努めました。

4 新規事業の受託等

市の福祉施策の実現に寄与するため、前年度に続き子育て支援に資するシルバー世代産前産後応援事業を行うとともに、平成29年度から始まっている介護予防・日常生活支援総合事業を行いました。

(1) 介護予防・日常生活支援総合事業

総合事業では、要支援1, 2の認定を受けた人と事業対象者の人に生活支援訪問サービス(掃除・洗濯・調理・買物等の家事)を提供し、受注件数42件、契約金額4,572,059円の実績となりました。

(2) シルバー世代産前産後応援事業

子育ての経験を有する会員が、育児・家事援助を必要とする産前産後の世帯について、支援員として家事、育児のサービスを提供し、延べ利用回数1,048回、延べ利用時間は1,957時間、契約金額1,820,010円の実績となりました。

5 財務体質の健全化と業務の円滑化

シルバー人材センターの財務状況を踏まえ、引き続き事業経営の健全化を推進し、財務体質の強化と業務の円滑化を進めました。

(1) 運転資金の確保と財務体質の強化

継続就業の場合、翌月3日までに就業報告書を提出、10日までに発注者に請求書を送るサイクルを徹底し、未収金の早期回収に努めました。また、未入金発注者への直接訪問及び内容証明郵便による督促など未入金の発生を防止するための対応に努めました。

(2) 新たな就業開拓

民間企業を訪問してセンター事業の説明を行って、就業機会の開拓に努め、労働者派遣事業などの多様な就業形態に対応しました。また、市役所等に働きかけ、受注確保に努めました。

(3) インボイス制度(適格請求書等保存方式)への対応

令和5年10月からインボイス制度(適格請求書等保存方式)が導入されると、会員に支払う配分金に係る仕入れ控除が認められず、センターの運営に極めて大きな影響を及

ばすことから、全国シルバー人材センター事業協会などを通して、配分金に含まれている消費税について納税が免除される特例措置の要望を行ってきましたが、認められませんでした。今後は、制度導入の状況を注視し、適切な対応を取るよう努めてまいります。

6 会員数の拡大の推進

会員増強委員会を中心に、「会員一人が1人の会員を」の目標を掲げ、会員増強活動を行っていますが、令和4年度も昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、例年10月に実施している岡山駅前での会員増強活動は中止せざるを得ませんでした。一方、多くの支部における出張入会説明会などの会員増強活動については、感染状況をにらみながら実施することができました。また、各支部役員が中心となり、一般家庭へチラシの配布活動や夫婦会員入会金免除制度をPRし、会員の拡大と就業機会の開拓に努めました。このような厳しい状況もあり、全体の会員数は、1,451人となり、前年度末より13人減少し、前年比99.1%となりました。登録会員の平均年齢は、75.1歳で前年度より0.3歳高くなりました。

7 シルバー人材センター事業の普及啓発活動の推進

市民と地域社会にシルバー人材センター事業を広く周知し、事業の発展・拡充を図るため、さまざまな機会を通じて普及啓発活動を行いました。

- (1)センター機関誌、リーフレットなどを発行し、会員、関係機関に配布し、シルバー事業への理解と協力を得ることに努めました。
- (2)市広報紙に記事を掲載するとともに、報道機関などに適宜情報を提供し、シルバー事業のPRに努めました。
- (3)行政機関と連携し合同説明会に参加し、当センターのチラシ、パンフレットを配布し、シルバー事業のPRに努めました。

8 労働者派遣事業の就業機会の確保・拡大

企業等において、社員との混在就業や指揮命令下での就業が可能な「労働者派遣事業」の拡大に努めてきた結果、新型コロナウイルス感染の影響がある中、契約金額、件数ともに増加し、契約件数192件、契約金額137,010,627円の実績となりました。

9 技能講習・研修会の充実

各種講習会を会員対象と一般市民に参加頂ける内容で、植木剪定講習会、飛散防止に効果的なカルマー（草刈機）講習会等の充実を図り、会員の技術・技能の向上と後継者の育成、さらに、新規会員獲得に努めました。

10 情報の収集

シルバー事業の充実、発展を図るため、研修会などを通じ、県シルバー人材センター連合会の主催する会議に出席し、連携、交流を深め、また、シルバー事業の活動状況の調査、情報の収集に努めました。